

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：62618

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370539

研究課題名(和文)方言ロールプレイ会話における談話展開の地域差に関する研究

研究課題名(英文) A Study on Regional Differences of Discourse Development in Japanese Dialect Role-Play Conversations

研究代表者

井上 文子 (INOUE, Fumiko)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・時空間変異研究系・准教授

研究者番号：90263186

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：各地の方言において、世代(高年層・若年層)と性(男性・女性)と上下関係(先輩・同輩・後輩)を組み合わせた複数の話者グループによる、場面(文句・依頼・慰め・勧誘・出欠確認・申し出)別のロールプレイ会話データを収録した。発話の内容・相手への働きかけの姿勢・コミュニケーションにおける機能に注目し、方言会話における談話構造・談話展開について、地域差・世代差・性差・場面差・メディア差の観点から分析した。データは「方言ロールプレイ会話データベース」で公開している。

研究成果の概要(英文)：We have collected data on role-play conversations in various Japanese dialects. The speaker groups were diversely composed in terms of generation (older/younger), gender (men/women), and hierarchical relationships (senior/peer/junior), and were recorded as they enacted different situations (complaint/request/consolation/persuasion/taking attendance/proposition). By focusing on the contents of speech, approaches to appealing to the other party, and communication strategies, the study analyzes the discourse structure and development of dialectal conversations from the standpoints of regional, generational, gender, situational, and media differences. These data have been made available in the "Japanese Dialect Role-Play Conversation Database."

研究分野：方言学

キーワード：方言談話 会話分析 発話機能 言語行動 データベース

1. 研究開始当初の背景

(1) 談話を対象とした研究は、近年関心を集めている。標準語談話だけでなく、方言談話を扱った研究も増加している。方言談話に現れる言語形式について計量的分析や機能分析をおこなうバリエーション研究は、活発におこなわれてきた。本研究組織でも、研究代表者の井上文子が回想形式「～ヨッタ」や間投助詞を、研究分担者の三井はるみが条件表現を、小西いずみが指定辞「ジャ」「ヤ」や原因理由表現を対象として分析した経緯がある。

(2) 方言談話の構造や展開に焦点をあてた研究は、まだ少数に過ぎない。その先駆的なものとしては、久木田恵(1990)が、東京方言の談話展開の方法を解明し、関西方言との比較によって、展開方法の地域性を考察して、類型化を試みている(久木田恵(1990)「東京方言の談話展開の方法」『国語学』162)。また、琴鍾愛(2005)が、多量の談話データを計量的に扱い、東京方言・大阪方言・仙台方言の説明的場面で使用される談話標識の出現傾向を比較することで、3方言の談話展開の方法の地域差を記述している(琴鍾愛(2005)「日本語方言における談話標識の出現傾向 東京方言、大阪方言、仙台方言の比較」『日本語の研究』1-2)。しかし、その後、方言の談話展開に関する研究は停滞している。その一因を、研究分担者の小西いずみは「談話展開を特徴づける言語要素を認定する方法の透明性が確保しにくいことにあると思われる」と指摘している。談話展開は、非常に興味深いテーマであるが、それを追究するには、談話に現れる言語要素を明確に把握し、談話展開を特徴づける談話標識を客観的に認定することが必要だということになる。

2. 研究の目的

(1) 各地方言のロールプレイ会話を対象として、談話標識を記述し、談話構造・談話展開の類型を見いだす。

(2) 方言談話における談話標識・談話構造・談話展開の地域差・世代差・性差・場面差を明らかにする。

(3) 「方言ロールプレイ会話データベース」を整備・公開する。

3. 研究の方法

(1) 自然談話は、話者の属性をある程度統一できても、場面や話題がさまざまであり、単純には比較することが難しい場合が多い。そのため、場面をそろえることが可能で、発話の意図や話の流れが比較しやすいロールプレイ会話を利用することにする。ロールプレイ会話は、役割を演じるという仮想の会話ではあるが、使用する表現や話の展開を話者自

身が考えるため、実際の言語運用に近い会話を得られる。調査は、「依頼」「勧誘」「出欠確認」「申し出」などの場面を設定し、電話をかけるという方法で、その状況での会話を親しい同性の友人同士で実演してもらう(ペア入れ替え式)。また、同性の先輩も話者として加え、総当たりの組み合わせで、同輩同士の会話のほかに先輩と後輩の電話での会話も収録する(リーグ戦式)。

(2) ロールプレイ会話データを対象として、各地方言において談話標識となる文法事象について使用実態を記述し、発話の内容や相手への働きかけの姿勢に注目して、方言会話をコミュニケーション機能の観点から分析し、方言における談話構造・談話展開・談話パターンを整理する。

(3) 各種のロールプレイ会話を比較・対照することによって、方言談話における談話構造・談話展開の地域差・世代差・性差・場面差・メディア差を明らかにする。また、待遇表現の運用や授受表現の使用の観点からも考察する。

(4) 各地のロールプレイ会話の音声・方言文字化・共通語訳・談話情報を整備し、「方言ロールプレイ会話データベース」としてWebで公開する。

4. 研究成果

(1) 秋田・東京(首都圏)・愛知・大阪(関西)・相生・広島・大分・熊本・人吉・鹿児島・沖縄において、世代(高年層・若年層)、性(男性・女性)、上下関係(先輩・同輩・後輩)を組み合わせた複数の話者グループによる、場面別(文句・依頼・慰め・勧誘・出欠確認・申し出)のロールプレイ会話データを収集した。

(2) 談話構造や発話機能をとらえるための指標に関しては、各場面の特徴を比較できるように、「話段」「行為的機能」「機能的要素」など、全体を通して共通の概念を用いて分析した。「話段」は、分析単位のひとつで、やりとりにおける参加者の談話上の目的によって区分がなされる。2人以上の参加者が雑談等で話す場合、「情報提供者：情報を提供することと関係する」「発話機能」を用いる」と「協力者：協力して話段を作り上げる」のふたつの役割があり、役割が交代するところで「話段」が変わるとする。「行為的機能」は、個々の発話を、多角的に、特徴の束としてとらえようとする際の、発話内容・発話姿勢についての分析項目のひとつである。「相手へのはたらきかけの姿勢」との組み合わせで発話機能を記述することを前提としている。「行為的機能」は、発話によって遂行される行為としての機能を考えるものであり、「情報要求」「行為要求」「注目要求」「陳述・

表出」「注目表示」「関係づくり、儀礼」「宣言」がある。「機能的要素」は、発話を、呼びかけ・説明など、相手に対する働きかけの機能を担う最小部分と考えられる単位に分割したものである。依頼発話に現れたものとして、《注目喚起》《事情》《緊急性》《依頼の念押し》《恐縮の表明》などが挙げられている。個々の「機能的要素」を、言語行動においてどのような役割を担っているかという観点からグループにまとめたものに「コミュニケーション機能」があり、対人行動を構成し得る要素として、依頼場面では、話を始める「きりだし」、相手に事情を知らせ、依頼の必要性などの状況認識を共有してもらう「状況説明」、相手の承諾を引き出すような働きかけをする「効果的補強」。依頼の意を表明する「行動の促し」、相手の負担に対する恐縮や遠慮の気持ちを表明する「対人配慮」などが示されている。

(3) 依頼談話を例にあげると、首都圏女性ペアについては、若年層が比較的単純な談話構造であるのに対して、高年層はやや複雑な構造となっている。明示的な「断り」「受諾」がないが、相手の反応から「断り」を察知し、この後、明示的な「依頼」を避け、《感想への同意》《恐縮の表明》《相手事情の理解》などを次々に行い、《事情》説明を続けている。再度の「依頼」も直接的ではない。依頼行為自体を目立たせず、相手の承諾を引き出すような働きかけをする 効果的補強 と相手の負担に対する恐縮や遠慮の気持ちを表明する 対人配慮 を繰り返すことで、被依頼者を納得させ、好意的な気持ちを抱かせるストラテジーを用いている。首都圏男性ペアの勧誘談話については、必ずしも《勧誘》という行為の促し が直接的に顕現せず、《都合・意向の確認》や《依頼》という表現でなされることが多い。また、効果的補強 の働きかけの効果や対人配慮の必要性を見積もりながら、行為の促し の表現の直接性・間接性を選択している。勧誘表現が顕現しないという点に関しては、ロールプレイ開始前の指示において、相手が断る可能性を予告させたため、過度に配慮した面もあったろうと思われる。ただ、原理的には「勧誘」と「依頼」とは、行為の共同性や利益の帰属先において相違がありながらも連続的なものであり、行為の負担の見積もりや対人配慮によって、表現が選択されると考えられる。具体例として、首都圏高年層女性ペアにおける依頼の要素の出現状況を下記に示す。

依頼 1	0004 A : B (あだ名) ちゃん↑、あのさー、{ 笑 } 《注目喚起》
	▼0006-1 A : 悪いんだけど、《恐縮の表明》
	0006-2 A : 日曜日に会があるじゃない。《依頼条件の確認》
	0008 A : で、そん、それ、ちょっとわ

	たしさー、あのー、都合悪くなっちゃったのよねー。《事情》 ▼0010-2 A : 悪いんだけど、《恐縮の表明》 0010-3 A : B (あだ名) ちゃん、出してくれる↑《交代の依頼》
依頼 応答 1 断り	0012-2 A : 立川なんだってー。《依頼内容の詳細伝達》 0014 A : 立川の国立ー 《依頼内容の詳細伝達》(1/2) 0016 A : 研究所ってーゆってたねー。《依頼内容の詳細伝達》(1/2) 0018-1 A : 確か1時間か2時間だと思っただー。《依頼内容の詳細伝達》 ■0022-1 A : 長いね、《感想への同意》
依頼 2	▼0022-2 A : 悪い。《恐縮の表明》 ▼0022-3 A : ごめん。《恐縮の表明》 ■0022-4 A : 忙しいのは十分わかんだけどさー。《相手事情の理解》 0024 A : ちょっと、あったしねー、そのときほら、お店があるじゃない。《事情》 0026 A : 予約が入っちゃったのよー。《事情》
依頼 応答 2 受諾	■0034 A : なんかあんの↑。《理由説明の要求》 ▼0036 A : 悪い。《恐縮の表明》 ▼0042 A : ごめんねー。《恐縮の表明》 0044 A : こっちもさ、もうほーんとに困っちゃっててねー。《事情》 0046-2 A : 予約のお客様でもあるしー、《事情》 ■0048 A : それ断ると、あとあとがちょっと出てくるじゃない↑。《事情の同意要求》 0050-1 A : だからどうしよかなーと思っ、《事情》 ▼0050-3 A : 申し訳ない、《恐縮の表明》 ■0050-4 A : B (あだ名) ちゃんなら、なんとかしてくれっかなーと思っ、《依頼の理由》 ■0052 A : かわりに今度さ、ランチごちそうするから。《相手利益の補強》 0054-2 A : { 笑 } 《関係のやわらげ》 0056 A : { 笑 } 《関係のやわらげ》 ▼0060-2 A : 悪い。《恐縮の表明》 0062 A : じゃ、そうしてもらえ↑。《意向の確認》 ▼0068-1 A : ありがとー、《謝意の表明》 ▼0068-2 A : 感謝します。《謝意の表明》 ■0070 A : そん、今度なんかで返すからねー。《相手利益の補強》 0076 A 0076 A : よろしくねー。《依頼の念押し》 0078-2 A : どうもー。《謝意の表明》

(4) 各地のロールプレイ会話の談話構造、談話展開の特徴、談話パターンを比較・対照することによって、地域差・年層差・性差・場面差・メディア差などを明らかにした。たと

えば、首都圏と大分との比較分析では、依頼表現において、依頼者が一度断られた後、どのようなストラテジーを用いて受諾まで到達するかを中心に、地域差・世代差・性差を考察した。大分談話では、依頼者が断られた理由（不都合）に対して、都合変更の依頼や指示あるいは情報の付加などをおこない、被依頼者の都合を変更させることで受諾に至る。一方、首都圏談話では、Aが自分の窮状を訴えるのみでBの受諾に至り、そのような構造は見られなかった。機能的要素について、大分の 効果的補強 の内容には「交替のための対策指示」や「相手都合の変更提案」など相手都合の内容に踏み込んだ積極性が見られた。特徴的な点は、大分高年層談話では、文意に直接関係しない二人称代名詞「あんた」「おまえ」が頻出することである。

・大分高年層女性の依頼

あー、ほんと。ほんとなら あんた。ほんなー、あんた、なんとか、あの一、あの一、代わりに、あの一、出てもらって、あんた行っちゃくれよー。行動の促し《直接的依頼》

・大分高年層男性の受諾

もうそら。おまえ、忙しいって、おまえ、も、おまえがゆーこっちゃけ、おまえ、どげーかせなしょうねーわ、もう。

大分県東部方言の「あんた」は、なくても全体の意味に違いはないが、相手を常に意識し、強調し、親しみを込めて呼びかけるものである。このような二人称代名詞使用は、話し手が相手への注意喚起を行うのが主な役割であり、大分談話には、「あんた」「おまえ」で相手を引き付け、依頼達成のためには相手の領域に入っていき積極性があるという特徴が見出せた。

(5) ロールプレイ会話にみる敬語運用については、丁寧語の場合、話し手・聞き手の関係に関わりなく、電話による会話の開始部と終了部において使用される「談話標識的使用」と、通常、丁寧語を使用しない関係性でも、ある立場に則った発話において使用される「立場的使用」といったふたつの機能の異なる丁寧語使用が観察された。これら「談話標識的使用」と「立場的使用」の用いられ方には、世代・性別・地域・場面による違いがあることを指摘した。

(6) 発展的なテーマとして、電話によるロールプレイ談話と、電話調査と同じ場面設定で収集したメールとを対照し、両者の談話展開の異動について考察した。

(7) 社会言語学会第 34 回大会において、ワークショップ「ロールプレイ会話による方言談話対照研究の試み 地域差・世代差・性差・メディア差に注目して」を企画し、それぞれの観点での分析事例を具体的に紹介して、話題提供をおこなった。実際のロール

プレイ会話データを、ワークショップ出席者に提示し、確認・分析をおこないつつ、方言談話の分析方法・分析対象項目・着眼点・今後の可能性などについて討論した。また、より多くの地域・世代を対象とした共同調査を呼びかけ、参加者が共有できる会話データベースを連携して構築していくことを提案した。

(8) 収録した音声・映像をもとに、各地のロールプレイ会話の文字化・共通語訳・注記付与を進め、話者情報・談話情報を集約した。個人情報処理した、音声・方言文字化・共通語訳・話者情報・談話情報を「方言ロールプレイ会話データベース」として Web で公開した。

(9) 本研究は、方言研究と談話研究のそれぞれの蓄積を生かし、両者を効果的に融合した研究として位置づけられる。

(10) 今後、ロールプレイ会話を用いた方言研究の方法と、得られた研究成果を生かして、方言教材の開発と方言学習の実践に役立つことを目的とした刊行物を企画している。また、方言におけるコミュニケーションをテーマに、場面設定談話に焦点をあて、さらに研究を発展させる計画である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

・日高 水穂、近畿中央部方言におけるシテイル相当形式の動態 現在形と過去形の非対称現象をめぐって、国文学、査読無、100、2016、pp.444-430

・日高 水穂、述語制の表現体系から見る日本語諸方言、述語制日本への探求、査読無、129、2016、pp.27-44

・井上 文子、松田 美香、酒井 雅史、白坂 千里、第 34 回研究大会ワークショップ「ロールプレイ会話による方言談話対照研究の試み 地域差・世代差・性差・メディア差に注目して」、社会言語科学、査読無、17-2、pp.1-7

・松田 美香、大分と首都圏の依頼談話比較 大分方言の「アンタ」「オマエ」のフィラー的使用、別府大学紀要、査読有、56、2015、pp.11-222

〔学会発表〕(計1件)

井上 文子、松田 美香、酒井 雅史、白坂 千里、ロールプレイ会話による方言談話対照研究の試み 地域差・世代差・性差・メディア差に注目して、社会言語学会、

2014年9月13日、立命館アジア太平洋大学
(大分県別府市)

[その他]
ホームページ等
<http://hougen-db.sakuraweb.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井上 文子 (INOUE, Fumiko)
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・時空間変異研究系・准教授
研究者番号：90263186

(2) 研究分担者

松田 美香 (MATSUDA, Mika)
別府大学・文学部・教授
研究者番号：00300492

熊谷 智子 (KUMAGAI, Tomoko)
東京女子大学・現代教養学部・教授
研究者番号：40207816

三井 はるみ (MITSUI, Harumi)
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・理論・構造研究系・助教
研究者番号：50219672

小西 いずみ (KONISHI, Izumi)
広島大学・教育学研究科・准教授
研究者番号：60315736

日高 水穂 (HIDAKA, Mizuho)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：80292358

(3) 研究協力者

酒井 雅史 (SAKAI, Masashi)

白坂 千里 (SHIRASAKA, Chisato)

田中 渉 (TANAKA, Wataru)

利岡 真帆 (TOSHIOKA, Maho)

野間 純平 (NOMA, Junpei)

森 勇太 (MORI, Yuta)

山本 空 (YAMAMOTO, Sora)